

# 平成 26 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	下水道課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理		実施計画事業	1) 公共下水道事業(No.42)				
予算等事業名	下水道施設管理経費							
目的	下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施します。							
内容	下水道施設の保守点検及び修繕を行い機能の維持に努める。また下水道台帳整備を実施する。							
根拠法令・条例等	都市計画法・下水道法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由					

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由					

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)				
	【説明】				

## 総合評価

実績	—				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	—				
前期(27年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
単位:	下水道施設の維持管理においては、施設の老朽度や損傷の発生に伴い実施するものであり、目標値の設定は困難である。また、台帳については整備済箇所を台帳に毎年反映することとなる。				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	—				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		106,543	105,628				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	106,543	105,628				

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 整備された下水道施設は、広範囲にあり特殊性であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 維持管理については、新たな手法や情報のが必要となり、近隣市町との連携が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 整備後の施設老朽度が浅いため、深刻な問題となっていない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 施設の老朽度が浅く、最小限の対応となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 維持管理については、今後の施設老朽度等の要因により、課題が出てくるため、現在では良好な状況が維持できている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理技術については、技術革新が日進月歩となっていることから、維持管理に伴う新技術情報等に注視し、低コストが図れる手法を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	快適な生活環境を保つため下水道施の維持管理を継続する。		
今後の方向性	下水道管渠は、布設後30年経過頃より老朽化が進み道路陥没事故等が増加するといわれている。今後、予防保全的対策をとるとともに、計画的かつ効率的な老朽化対策の策定が必要である。		